

岩手県 グループホーム田園 自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

( 2 階 ユ ニ ッ ト )

↑  取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私たちは、いつもあなたのそばにいて心的心声を聞いています。地域の人々や自然とふれあい自分らしく生き生きと笑顔で過ごせるよう自由で喜びのあるホームを目指します」を理念とし、日々取り組んでいる。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・理念の掲示 ・園独自のマニュアルファイルを、各職員に配布している	○	1回／年は、勉強会を開き、確認等の意味も含め徹底していきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・別ユニットに一人だけではあるが、買い物や近隣の喫茶店に行ったり、近所の庭に咲いているお花を頂いて来ている。(安否確認のため、名札やGPSを携帯)行きつけの喫茶店等には理解を得ている。 ・運営推進会議メンバーの地域民生委員の方の協力を得て、自治会や行事への参加や協力を心がけている。	○	今後も引き続き地域の行事に参加・協力を続けていく。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的な挨拶は日頃行っているが、気軽に立ち寄っていただけのようなお付き合いはできていない。園の行事を通じて、幼稚園児や学童の方達との交流はある。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事に声を掛けていただく機会が多くなって来ている。また、近隣施設(老人福祉センター、下太田保育園、デイサービスセンター田園)と、7月には合同の避難訓練を実施している。園の行事にも地域のボランティアの方に出演をしていただいたり、園児や子ども達に参加していただいている。	○	今後も引き続き地域の行事に参加・協力を続けていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現状は利用者への対応に追われている。今後地域に何かしら貢献できるように取り組んでいきたい。	○	今後地域に何らかの形で貢献できるように取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	過去の評価を活かすよう、全職員努力している。実際の介護内容記録や個別援助計画の中に活かしている。	○	今後も継続的に改善に努めていきたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、外部評価についてはもちろんのこと、利用者の状況や今後の取り組み等について貴重な意見や情報を頂いている。結果、入居者の安全が最重要課題でありそのような意見を取り入れながら今後の行事や日々のサービスに活かしたいと考えている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要な届出や事故報告などについては連絡を取り実施している。また、介護認定や区分変更の申請等、実際役所に向いてお話や相談する機会はある。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	個々に、介護福祉士及び介護支援専門員の資格取得のため研修等に参加し学ぶ機会があった。また、介護認定の区分変更等の必要な利用者のため、ご家族への相談や連絡・助言・手続き等の援助は行われている。	○	管理者・職員ともに今後も園内外での研修等でより理解を深めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	個々に、介護福祉士及び介護支援専門員の資格取得のため研修等に参加し学ぶ機会があった。また、利用者の権利や倫理綱領を掲示し、各職員は利用者の身体状況(傷や内出血等)については細心の注意を払い対応に努めている。	○	管理者・職員ともに今後も園内外での研修等でより理解を深めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の重要事項説明や入居時の契約書の取り交わしの際に説明をしている。また、施設にて対応が困難となりつつある利用者の家族には、他介護施設と連携をとりながら、相談援助を行い、円滑に転居できるよう援助している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をしているが、一度も投書はない。利用者の意見や行動等から真意をくみ取り、ご家族へ相談したり職員同士で話し合い、時には連絡ノートに記入し、対応している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・身体状況に変化があった場合は、すぐ家族に連絡相談し対応している。 ・金銭管理については、パンフレットや重要事項説明書に原則として預からない旨記載しているが、外出し買い物が出る利用者があるため、その方の分は、金庫で保管、出納記録を定期的に報告し、都度お金を預かってている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価の中で、家族へのアンケート調査を郵送している。その結果は、職員全員が回覧にて共有しその後の運営に活かすよう努力している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	不定期ではあるが、全体会議を開催しており、本社からも役員が出席し、意見や提案を聴く機会は設けている。またその他意見がある場合は、都度個別で聴ける体制をとっている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	緊急対応やその他の対応の為に職員を常に確保している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の混乱を招かないように配慮している。特に離職の際は、さりげなくお別れができるように対応している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて育成するための立案はないが、職員個々が自発的にスキルアップの為に研修に参加している。その際の休み希望に(シフト作成)については柔軟に対応している。また、疲れが出ないように、有給休暇もとるように配慮している。	○ 今後、段階に応じた計画について検討していきたいと考えている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の定例会とブロック会へ参加し交流や情報交換を行っている。他施設にて開設者実地研修は行ったことはあるが、今年度はまだ一般職員の他施設への相互訪問等は行われていない。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・休養がとれるよう、9回/月の休みを設けている ・有給休暇も取れるよう配慮している。	○ 職員間のコミュニケーションが図られるような取り組みも考えていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	先にも述べた通り、職員個々が自発的にスキルアップの為に研修を受けたり、国家試験を受験したりしている。その為に休み希望や有給休暇が使えるよう、可能な限り柔軟に対応している。資格取得し、履歴書上変更届け提出により、職務手当での支給がされている。(但し、ヘルパー1級以上～)	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	現状は、ご家族から相談を受ける事が多い。入居されてからは、可能な限りご本人の意向を傾聴するよう対応している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申し込みの段階から、ご家族の悩みや相談を伺うようにしている。また、利用者の状況等に応じては他の介護サービス等についても説明している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記の通り、併せてGHで生活継続が困難となった場合を見据え、他介護施設等への申し込みやその時々を知り得た介護サービスの情報も提供している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に際しては、職員が本人にお会いした後、ご家族と一緒にホームに来られ雰囲気を感じて頂き、納得された上で(本人も、職員も)入居となるのが理想的であると考えている。現実には追い詰められ、疲れ果てた家族が他介護施設・病院などから直で入所されるケースが多い。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の特技をレクリエーションや行事等に活かせるよう心がけている。本人が生き生きと生活されていた頃の昔話を傾聴し、より深く本人を理解できるよう努めている。	○	今後も継続的により深い理解ができるよう努めていきたいと考えている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆が絶えることのないよう、個別援助計画の中で最新の情報を提供しながら、ご家族にも無理なく支援して頂けるよう働きかけを行っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	上記の通り		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者に近隣の在住者がいないことも一つの要因かもしれないが、家族(子、兄弟、孫)以外の面会は少ない。また、面会に来て忘れ去られていることも、原因の一つかもしれない。地域になじみのある利用者には、訪問者や折にふれ(幼稚園のイベント等)外出の機会があり、迎えに来て頂くなど温かい援助を頂いている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	他利用者とのコミュニケーションがうまくとれない利用者も居るが、職員が間に入ったり、状況を見ながら対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去に至るまでは、病気による入院以外は何らかの形では必ず支援している。(入居先探し、他介護施設の情報提供や申し込み書の取り寄せ等) 退去の際には、ホームとしてできる協力は惜しまないことをお伝えしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現状は、介護者本位に対応していることが多いかもしれない。が、本人の真意や希望が見出せずにいることも多い。ご家族との関係もあり、本人本位に検討を重ねても結論が出ないでいる。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に詳しい本人の生活環境や生活歴などの情報が少ないのが現状であるが、できるだけ収集できるよう努めている。また、生活していく中で、家族や本人から伺うことが多い。また、他機関(入居前のサービス利用先や担当ケアマネージャー等)から情報をえる事もある。	○	今後も継続的に情報収集に努めていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員間で毎日の申し送りや連絡ノート等で情報の共有に努めるとともに、個別援助計画を作成、職員個々の意見を取り入れながらその時々の変化に対応した計画立案を実施するよう心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	最初は、家族の意向や園の生活に慣れることなどに重点をおき計画を立案し、本人が慣れ始めた頃に再度ケアのあり方や、日々対応している職員から課題や本人の様子等を話し合い計画の見直しを行っている。	○	今後もより本人本位の計画になるよう努めていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化については、家族、協力医又は主治医との連携をとりながら対応し介護計画を立案している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の生活日誌にサービス目標を掲げており、日々業務の中で職員の意識付けもでき、計画立案の見直しにも活かされている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	3年が経過していなかったため、ショートステイ等の対応ができなかったが、今後は要望があれば対応していきたいと考えている。また、事業所の多機能性とは異なるかもしれないが、身体的にホームでの入浴が困難な場合等は、隣接のデイサービスの特浴の利用やマッサージがしたいとの要望があれば、ウォーターベッド等の利用をさせていただいている。更に、映画会や園児交流会等のイベントには全員ではないが、参加させてもらっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向や必要性に応じているかどうかは疑問であるが、地域に在住の学生(高校生)のボランティアの受け入れや、地元中学校のボランティアの受け入れを行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	メリハリのない生活になっている利用者や生活不活発となっている利用者へどのようなサービスが今一番必要なのか、家族や担当ケアマネジャー等に相談したりしている。また、転倒要注意・昼夜逆転の利用者等に対しては、デイサービス等の利用も含め検討中である。	○	利用者にとってより望ましいサービスについて個々の状況を見ながら検討して行きたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ、運営推進会議のメンバーとしてお話を伺う機会がある程度である。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医またはかかりつけ医については、本人や家族の意向に従って対応している。ほとんどの利用者が園の協力医が主治医であり、24時間体制での往診や診察、更に入院が必要と判断されれば、入院先の手配、紹介状等適切に対応していただいている。職員は協力医に対し迅速な情報の提供、薬や受診援助等必要に応じ対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	家族や主治医と相談し、必要に応じ診断や治療が受けられるよう支援している。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員には経験豊富な准看護師もおり、折に触れ職員が疑問だったり不安な事を相談できる体制をとっている。また、隣接施設の看護師による、週1回の健康管理や様子確認を実施しており、また時々の状況にあわせ相談や協力を得ている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時の対応(受診、送迎等、入院物品の用意、入院時の情報提供等)、入院中の面会や洗濯もの、日用品の届け物など状況に応じ対応している。また、おおむね1ヶ月間は居室を空けて戻りをお待ちしていることなどは、入所時の契約の際に伝えている。入院中の必要物品については、病院から連絡をもらい随時園の職員が対応することとしており、病院との連携もできていると思っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した利用者に限り、個別の状況に応じて家族に対し医療連携体制の指針の説明を行い、見取り計画書・同意書を取り交わし、協力医の署名捺印を頂いている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	まだ終末期とは言えないが、現在週2回主治医(協力医)の往診、点滴を行っている利用者がある。健康診断に行けない利用者には、訪問審査も実施。少しでも変化のある利用者については、協力医への連絡等をまめに行い、受診や往診の対応をしている。こうした対応がチームケアの足がかりになると思っている。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・園から他施設へ住み換えを勧める場合、家族への説明を十分に行い納得していただいた上で、他施設への申し込みを行っていただき、家族の了解のもと訪問調査前後に、利用者の情報交換や情報提供を行こなっている。 ・家族が以前から申し込みしており、転居となった場合でも、家族の了解のもと、出来る限りの情報提供及び情報交換を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	安全性に配慮しながら可能な限り利用者個々のペースを大切にしていきたいと考えている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄が自立されている利用者については、プライバシーを侵害しないよう、入浴をまめにして頂くなどの対応をとっている。援助が必要な方については、主治医との連携のもと薬を併用しながら排泄パターンの把握をし気持ちよく生活できるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低限の清潔保持のため、無理に入浴をしていただくケースはある。また、利用者の安全や職員の人数が多い時日中に入浴していただいている。しかし、毎日入浴される方もおり、また希望される方については柔軟に対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者個々の状況に応じ対応している。また、安全が確保されない場合などについては、個室に限定せず職員目の届く場所やお気に入りの場所で休んで頂くこともある。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器拭きやテーブル拭き、洗濯たたみなど手伝ってもらっている。また、気晴らしにGPSを携帯し外出や散歩される方もいる。自力で歩行できない方については、天候にもよるが車椅子で散歩に出るなど支援しているが、今年のように猛暑が続くと、外出もままならず屋内で過ごすことが多かったように思う。体操やカルタ取り、ナツメロを唄う、七夕や季節飾りの創作、その他室内でのレクなどに興じられているが、そのほとんどが職員主体で行われているのが現状である。	○	より本人の楽しめる事・喜んでもらえる事を日常の様子・言葉や生活歴等から見出し支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	別ユニットに一人のみ現金を所持し、買い物や喫茶店に出かけられている。スーパーにお連れし、欲しい物を選んで頂く支援をしている利用者も居る。が、ほとんどの利用者は、お金を所持していない。	○	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人は、自由に散歩に出かけられている。別ユニットには1名買い物や喫茶店に出かけておられる。何れも、GPS携帯して頂いております。	○	希望に応じて散歩も含め外出の機会を設けて行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見やドライブの計画を立てたが、体調不良者や入院者が出た為、その対応に追われ数名のみだけで全員は実現できなかったが、家族対応にて、自宅外泊や実家へ出かけるなどされている利用者も居る。外泊や外出の際には服薬等を忘れずにお渡しするよう、排泄の状況についての説明など支援している。しかし、ほとんどの利用者は家族と共に外泊や実家へ出かける機会が皆無に等しい。	○	家族の協力も仰ぎながら可能な範囲で機会を作って行きたい。  (事業所名 岩手県 グループホーム田園)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話の要求に対しては都度対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問できるよう、配慮しているつもりであるが、ほとんどが家族(子、嫁、孫等)でなじみの友人の面会は少ない。唯一、地元で生活されていた利用者(別ユニット)には、友人・知人の訪問や、外出のお迎えなどが頻繁に行われている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員は、各階掲示板に利用者の権利や倫理綱領を掲示しており、身体拘束をしないケアをしなければならない事は十分理解している。が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を全て正しく理解しているとは言えない。	○	園内外の研修会などを通してより理解を深められるようになっていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の安全の為、やむを得ず施錠したこともあったが、現在は利用者も落ち着いておられ施錠していない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人のプライバシーやプライドを傷つけないよう常に配慮するよう心がけ対応している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁等については、包丁まな板殺菌庫に保管している。洗剤等は目の付かないところに保管している。収集癖のある利用者については、見守りや声掛け等を行いトラブル等を未然に防ぐよう配慮している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者個々の状態に応じ、起こりうる事故等の可能性を認識し、また過去の経験から教えられるなどし事故防止に努めている。しかし、リスクに対する認識がまだ甘いと言えるかもしれない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルを職員に配布し、また、各階に掲示してある。心配蘇生法の講習会への参加、AEDの使用方の講習等にも参加している職員もかなり居るが、全員とは言えないし、定期的な訓練も実施していない。	○	緊急時の対応については継続的に勉強会を行う事で全職員に周知を図っていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災の避難訓練は夏に実施したが万全とは言えない。また緊急連絡網等も一応用意してある。しかし、自然災害に対する備えは出来ておらず、また、自然災害の場合はGHだけ被災するわけではないので、地域の人々の協力が得られるのかが課題と考える。	○	火災時の訓練については毎年合同の訓練も含め行っていく事になっているが自然災害については今後どのような方法があるか検討していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	利用者個々の身体状況等の変化に伴い、起こりうる事故等のリスクについて情報提供や説明を都度行っている。しかし、個室の事故については、リスク回避の対応に苦慮している。	○	今後も継続的に情報提供やリスクの可能性について家族に行っていききたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の体調変化には常に配慮しており、協力医や家族と連携をとりながら適切な医療機関への受診ができるよう、支援している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病状、病歴等に対する認識はおおむね理解できている。服薬の変更等は申し送りノートや特記事項に記載し、情報が共有できるよう対応している。	○	今後も継続的に理解に努め状況の変化があった場合は迅速に情報が共有できるよう対処していききたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日課の歌体操、乳製品の摂取や食物の工夫はしているつもりであるが、改善されない方は、協力医や主治医から処方された薬を服用されている。また、排便チェック表に排便の有無、量等記録し、状況に応じた服薬管理をしている。	○	今後も創意工夫を続けていき改善を図っていききたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアの声掛けや誘導の徹底を実施しているが、その時々利用者の状況で行えない方も数名おられる。全員ではないが、歯科往診による口腔ケア受診の支援もしている。また、義歯洗浄剤、歯みがき粉の残量のチェックも行い、不足品購入の支援もしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の咀嚼能力・嚥下状態・病気や嗜好に合わせ、食事量や軟らかさ、トロミ剤使用など配慮して、提供している。むせ込みの強い利用者には、お茶ゼリーなど使用し、こまめに水分補給を促している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザは毎年家族の承諾のもと予防接種を実施している。また、ノロウイルス対策としては、次亜塩素素を使用し(希釈の機械を設置)発生を未然に防ぐよう努力している。食器・まな板、調理器具洗浄時も、次亜塩素素を使用するよう取り決めがある。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	次亜塩素素消毒の実施、包丁、まな板の使い分け、包丁まな板殺菌庫の設置、冷蔵庫の食物保管の区分け、職員の手指消毒の徹底など衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関のスロープにも手すりをつけ、以前よりは安全に出入りできるようになった。また、草花を植えているものの、手入れが行き届いていないことが多い。建物の両側は駐車スペースとなっており、また並びに幼稚園や老人福祉センターがあり、それぞれの施設の利用者の車の往来が激しい時間帯があり、安心して出入りできるとは言えない。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には季節にあった飾り付けや植物を置いている。不快な音はないが、トイレの明かりは自動感知となっており、時々長く利用していると消灯してしまう時があり、利用者が不満を訴える場合がある。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々に椅子を配置し、思い思いの場所で過ごせるよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	重要事項説明時にも、なじみの家具等の持ち込みをお願いしているが、なかなかそのようになっていない方が多い。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室には暖房器とロスナイを設備しており、冷房は各階ホールに3箇所設置、居室のドアを開けておけば十分にその機能を果たせるだけの容量がある。温度調節は、建物内の何処に居ても出来るだけ温度差がないよう配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールには手摺を配置している。車椅子使用の場合でも十分な広さをとってある。しかし、浴室への段差は意識的段差の域を越えているため、常に声掛けや注意・見守りが必要である。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや居室のドアへの張り紙、個々の洗面台へは名前を貼る、見守りや声がけ等、失敗やトラブルを防ぐよう配慮している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	隣の幼稚園児が園庭で遊ぶ姿や運動会、さんさの練習など見て楽しまれている。1階の利用者の中には一人自室から外に出て、身体のためと話し草取りをされている方もいる。また、春から夏にかけて花壇の花を楽しまれたり、時々デイサービスの畑で野菜を収穫して楽しめることもある。2階の利用者は食堂脇のベランダに沢山の植栽があり季節ごとの花々を楽しまれている。しかし前述のように、建物の両側は常に駐車スペースとなっているため、十分に活用できているとは言えない。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)